

北杜市子ども読書活動推進計画（第三次）の成果と課題について

第3次推進計画の効果的、効率的な活動については、毎年年度末に児童館、放課後児童クラブ、つどいの広場、子育て支援センター、学校、保育園、図書館を対象に進捗状況のアンケートを行い、それを基にしたPDCAによる検証を行ってきた。その検証をもとに、第3次推進計画の成果と課題についての主な項目である1. 家庭における読書の推進、2. 地域における読書活動の推進、3. 保育園における読書活動の推進、4. 学校における読書活動の推進、5. 図書館における読書活動の推進、6. その他についてまとめた。

1. 家庭における読書活動の推進

○市立図書館の利用

令和5年度末に保育園の保護者を対象に実施したアンケートでは、「お子さんと一緒に北杜市図書館に行きますか」という問いに対して、「よく行く（1週間に3回程度）」「ときどき行く（2週間に1回程度）」と回答した人が19.5%だった。平成30年に実施したアンケートでは、20%となっており、微減しているもののほぼ横ばいという結果が出ている。

また、「北杜市内で開催されているおはなし会やイベントに参加したことがありますか」という問いに対しては、「ある」と回答した人がR5年度は37%、H30年度は39%で以前に比べると微減している。

子どもがおはなし会に参加したり本を借りるために図書館を利用するには、保護者の手助けが必要とされるが、図書館に「行かない」理由としては、「仕事が忙しいから」が51%と一番多く、次いで「家事が忙しいから」「図書館に興味がないから」「子どもが本を破いたり汚す、さわぐなど図書館に迷惑をかけたくないから」という理由が多い。おはなし会やイベントに参加したことが「ない」理由としては、「開催されていることは知っていたが、開催日時が合わないから」が45.5%と一番多く、次いで「家事が忙しいから」「子どもが騒いだり、じっとしてられず、迷惑をかけてしまうから」となっている。

最近のおはなし会への参加状況を見ると、土曜日の午後を実施している図書館では、父親が子どもを連れて参加している姿が多く見られる。

現在北杜市図書館では、平日の午前中または午後におはなし会を実施している図書館が多いが、平日は保育園が終わる時間帯に開催時間を変更するなど、保護者が連れてきやすい曜日や時間帯に設定することで、参加しやすい体制を整えることができるとは思えない。

今後は、開催時間や開催日が課題。

また、令和5年度末に小・中・高校生を対象に実施したアンケートでは、「あなたは市の図書館にどれくらい行きますか」という問いに対して、「よく行く（1週間に3回程度）」「ときどき行く（2週間に1回程度）」と回答した児童・生徒が、小学校で22.9%、中学校で16.3%、高校で5.1%となっている。平成30年に実施したアンケートでは、小学校で36.2%、中学校で26.2%、高校で18%

となっており、大幅な減となっている。「行かない」理由としては、小学校低学年では「一人ではいけないから」が最も多く、次いで「忙しいから」となっている。小学校高学年では「忙しいから」が最も多く、次いで「一人では行けないから」となっている。以下、中学生・高校生では「忙しいから」が最も多く、次いで中学生は「他に好きなことがあるから」高校生は「面倒くさいから」となっている。

小学生では、本人の忙しさもさることながら、親の忙しさも影響し「行きたくても行けない」状況もあるのではないかと考えられる。また、中・高校生は、忙しい日々を送っていることや図書館以外に興味があり、そちらに時間を費やしていることが伺える。

今後は、今までとは違った図書館のあり方を考えていくことが必要。

○家読（うちどく）の実施

令和5年度末に保育園の保護者を対象に実施したアンケートでは、「家庭の中で、お子さんと一緒に本を読むことがありますか」という問いに対して、「毎日読む」「1週間に3回程度読む」と回答した人が合わせて54%で、平成30年の51%を上回っている。また、「ほとんど読まない」がH30年度が18%だったのに対して、R5年度は6.5%と減少している。この結果から、家で子どもと一緒に読書を楽しむ家庭が増えていることが伺える。

北杜市図書館では、「絵本を介して家族で楽しい時間を過ごしてほしい」という思いのもと、1歳のお子さんに絵本をプレゼントする「ブックスタート事業」を実施しており、その満足度は97%ととても高い。ブックスタートでプレゼントされた絵本を家庭で読んだという割合も98%となっている。このことから、ブックスタート事業は家読の推進に有効な事業だと考える。

「お子さんに本を好きになってほしいと思いますか」の問いには、94%の保護者が「はい」と回答していること、また「どうすれば、お子さんが本を好きになると思いますか」の問いには、77.2%の保護者が「大人が読んであげる」と回答していることから、家読の大切さに対する保護者の意識は高くなっていることが推測出来、成果が上がっていると考えられる。

また、令和5年度末に小・中・高校生を対象に実施したアンケートでは、「あなたは家族と一緒に読書をしますか」という問いに対して、「毎日読む」「1週間に3回程度読む」と回答した児童・生徒が小学校で21.8%、中学生では2.9%、高校生では1.2%となっており、学年が上がるにつれて家族と一緒に読書をする割合が低下している。平成30年に実施したアンケートでは、小学生で19.5%、中学生で22.2%、高校生で1.1%となっているため、小学生、高校生の家庭で微増、中学生の家庭では大幅に低下している。

小学生なってくると「ひとり読み」が出来るようになり、家庭で親が積極的に関わる機会が減ってくるためだと考えられるが、家読の推進を行っている学校も多くあることから、日常的な推進を行っていく必要がある。

○保護者による読み聞かせ

令和5年度末に保育園の保護者を対象に実施したアンケートでは、「お子さんは本を読んでもらうことが好きですか」という問いに対して、81%が「好き」と回答している。また、「ブックスタート後、お子さんに絵本を読んでもらう機会が増えましたか」という問いに対しては、80%が「増えた」「ブックスタート以前から読んでいた」と回答しており、H30年度の67%を大幅に上回っている。

このことから、本を読んでもらうことが好きな子どもが多く、また多くの保護者が日常的に読み聞かせを行っていることが伺える。

2. 地域における読書活動の推進

児童館・放課後児童クラブ・子育て支援センター・つどいの広場

○おはなし会の実施

年度	H30	R1	R2	R3	R4	R5
実施施設数	16/23	16/23	10/26	8/25	14/25	16/25
実施率	69.5%	69.5%	38.5%	32%	56%	64%

R2～R4は、新型コロナウイルス（以下「コロナ」という）の影響で縮小していた取り組みも、R5年度の実施状況を見ると、児童館で4施設中3施設、放課後児童クラブで14施設中6施設、子育て支援センターで3施設中全て、つどいの広場でも4施設中全て実施し、コロナ前の状況に近づきつつある。

放課後児童クラブでの実施が4割程度にとどまっているので、おはなし会の実施を推進し実施を促すことが課題。

○おはなし会等の回数

年度	H30				R1				R2				R3			
	月1～3回	月4回以上	年1～6回	年7回以上												
実施回数	6	0	6	4	7	3	5	1	0	5	4	1	5	2	1	0
施設数																
年度	R4				R5											
年度	R4				R5											
	月1～3回	月4回以上	年1～6回	年7回以上	月1～3回	月4回以上	年1～6回	年7回以上								
実施回数	3	3	6	2	6	1	9	0								
施設数																

毎月開催している施設よりも、2カ月に1回の割合で開催している施設が上回っている。開催回数の増加を促すことが課題。

○団体貸出の利用

年度	H30	R1	R2	R3	R4	R5
実施施設数	17/23	16/23	20/26	20/25	19/25	21/25
実施率	73.9%	69.5%	76.9%	80%	76%	84%

コロナを境に団体貸出しの利用が増え、R5年度は実施率が84%まで達した。利用は着実に増加している。現在利用のない施設には利用を促すことが課題。

○図書館との共催によるイベントの開催

年度	H30	R1	R2	R3	R4	R5
実施回数	70	72	1	1	1	0

コロナを境に図書館と共催によるイベントが著しく減少した。外部の人を施設内に入れることが難しい状況だったためやむを得ないが、これまでの開催状況の検証を含め、新たに関係団体との連携を図っていくことが課題。

3. 保育園における読書活動の推進

○図書館職員及び図書館ボランティアによる読み聞かせ、おはなし会

年度	H30	R1	R2	R3	R4	R5
実施回数	52	27	1	0	6	28

コロナにより実施回数が激減したが、R5年度は実施回数の増加の兆しが見えてきた。コロナも落ち着き、園の受け入れ態勢も整ったことから、コロナ前の実施回数に近づけると推測される。

○ボランティア、保護者による読み聞かせ：実施している園

年度	H30	R1	R2	R3	R4	R5
実施園数	15/17	12/17	3/18	2/18	2/17	6/17
実施率	88.2%	70.5%	16.6%	11.1%	11.7%	35.3%

コロナにより実施している保育園が激減したが、R5年度は実施回数の増加の兆しが見えてきた。コロナも落ち着いたことから、ボランティアが園に入ることを許可する園が増えたため、コロナ前の実施回数に近づけると推測される。

○ボランティア、保護者による読み聞かせの回数

年度	H30				R1				R2				R3			
	月1回	月2～5回	年1～5回	年6回以上												
実施回数																
園数	5	0	5	5	2	0	4	6	2	0	0	1	1	0	0	1
年度	R4				R5											
実施回数	月1回	月2～5回	年1～5回	年6回以上	月1回	月2～5回	年1～5回	年6回以上								
園数	1	0	0	1	2	2	0	2								

本に親しむ機会をより多くするため、実施回数の増加を促すことが課題。

○図書の団体貸出し

年度	H30	R1	R2	R3	R4	R5
実施園数	7/17	7/17	10/18	8/18	8/17	9/17
実施率	41.1%	41.1%	55.5%	44.4%	47%	52.9%

保育園への図書の団体貸出しは、増加傾向にある。団体貸出しを利用すると、1か月100冊まで本を借りることが出来る。それを定期的に行うことで、たくさんの本に触れることが出来る利点があるので、その利点を案内しながら、引き続き推進をすすめていくことが必要。

○異年齢交流による読み聞かせ：実施している園

年度	H30	R1	R2	R3	R4	R5
実施園数	1/17	0/17	0/18	0/18	0/17	0/17
実施率	5.8%	0%	0%	0%	0%	0%

異年齢交流による読み聞かせを実施している保育園は無い。ひと昔前は、中学校の家庭科の授業で保育体験をする場面もあり、その中で読み聞かせを行うこともあったが、現在はどうか。異年齢交流（小・中・高校生）における読み聞かせは、学校が関わってくることから、推進していくことに無理があるのではないか。

4. 学校における読書活動の推進

○朝の読書の時間の推進：実施している学校

年度	H30	R1	R2	R3	R4	R5
小学校	11/11	9/9	8/9	8/9	9/9	9/9
	100%	100%	88.8%	88.8%	100%	100%
中学校	9/9	9/9	9/9	9/9	9/9	9/9
	100%	100%	100%	100%	100%	100%
高校	2/3	2/3	2/3	2/3	2/3	2/3
	66.6%	66.6%	66.6%	66.6%	66.6%	66.6%

小中学校での実施率は100%となっている。高校は、参考として見てほしい。小中学校については、今後も引き続き推進していくことが望まれる。

○朝読書の実施回数

年度	H30			R1			R2			R3			R4			
	毎日	週1～3回	月1回程度	毎日	週1～3回	月1回程度	毎日	週1～3回	月1回程度	毎日	週1～3回	月1回程度	毎日	週1～3回	月1回程度	
小	1	10	0	1	8	0	0	8	0	0	8	0	0	9	0	
中	6	3	0	6	3	0	6	3	0	7	2	0	4	5	0	
高	1	1	0	1	1	0	1	1	0	1	1	0	1	1	0	
年度	R5															
実施回数	毎日	週1～3回	月1回程度													
小	1	8	0													
中	1	9	0													
高	1	1	0													

毎日実施する中学校の数が減少しており、「毎日実施している」から「週に1～3回実施している」と回答した学校が増えた。文部科学省が推進する読書活動の一つである朝読書の4原則「みんなで作る 毎日やる 好きな本でよい ただ読むだけ」を再度確認し推進していくことが課題。また、毎日実施していた学校が週1～3回に変わった理由を検証していくことも必要。

○おはなし会、ブックトーク等の充実：実施している学校

年度	H30	R1	R2	R3	R4	R5
小学校	11/11	8/9	7/9	6/9	8/9	9/9
	100%	88.8%	77.7%	66.6%	88.8%	100%
中学校	7/9	7/9	7/9	7/9	8/9	8/9
	77.7%	77.7%	77.7%	77.7%	88.8%	88.8%
高校	1/3	1/3	1/3	1/3	1/3	1/3
	33.3%	33.3%	33.3%	33.3%	33.3%	33.3%

高校では1校が毎年ブックトークを行っており、図書館司書と長坂の学校司書が出向いている。小中学校から図書館へのおはなし会やブックトークの依頼も年々増えており、この取り組みに関する学校と図書館の連携も活発に行われている。小学校では、読み聞かせボランティアによる読み聞かせも年間を通して計画的に行われている。今後も積極的に推進していくことが望まれる。

○おはなし会、ブックトークの実施回数

年度	H30			R1			R2			R3			R4		
	年1～5回	年6～15回	年16回以上												
小	5	1	5	4	2	2	2	4	1	2	2	2	2	3	3
中	6	0	0	7	0	0	7	0	0	7	0	0	8	0	0
高	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0
年度	R5														
実施回数	年1～5回	年6～15回	年16回以上												
	小	3	5	1											
中	7	1	0												
高	1	0	0												

中学校では、実施している学校のほとんどが年1～5回の実施となっている。小学校では年16回以上実施している学校も多かったが、最近は6～15回にとどまっている。時間の確保が難しくなっているためと思われるが、実施を推進していくことが望まれる。

○家読の推進：推進を行っている学校

年度	H30	R1	R2	R3	R4	R5
小学校	11/11	9/9	9/9	9/9	9/9	9/9
	100%	100%	100%	100%	100%	100%
中学校	9/9	8/9	9/9	9/9	9/9	9/9
	100%	88.8%	100%	100%	100%	100%
高 校	0/3	0/3	0/3	0/3	1/3	1/3
	0%	0%	0%	0%	33.3%	33.3%

家読は、読書をきっかけに、家族のコミュニケーションを豊かにしようという試みであり、山梨県教育員会の「しなやかな心の育成推進プロジェクト」の取り組みの一つでもある。北杜市全ての小中学校で家読が推進されている。引き続き推進していくことが望まれる。

5. 図書館における読書活動の推進

○児童資料の網羅的な収集：年度毎の購入冊数（寄贈除く）と一般図書との購入割合

年度	H30	R1	R2	R3	R4	R5
児童書購入冊数	1981	1821	1884	1633	1518	1768
一般書購入冊数	6355	5812	5872	5252	4561	4700
児童図書の割合	31.1%	31.3%	32%	31%	33.2%	37.6%

児童図書の新規購入冊数は、一般図書の購入に対しておよそ3割で推移していたが、R5年度は、児童書購入のための特別予算を獲得し、調査探求図書として主に調べ学習に活用できる図書を購入することが出来、児童図書の購入割合も37.6%と増加した。今後も予算の確保を行いながら、質の高い資料を整備していくことが必要。

○おはなし会、各種イベントの実施：実施回数と参加人数（8図書館合計）

年度	H30			R1			R2			R3			R4		
	おはなし会 (定例)	おはなし会 (定例以外)	その他イベント												
実施回数	210	20	18	283	12	22	1	3	2	94	7	12	159	32	13
参加人数 (延べ)	1413	797	959	4385	689	1840	45	27	105	428	124	430	1005	1227	460
年度	R5														
イベント種類	おはなし会 (定例)	おはなし会 (定例以外)	その他イベント												
実施回数	267	40	25												
参加人数 (延べ)	3442	1632	772												

おはなし会（定例）、その他イベントの参加人数について見ると、コロナ蔓延防止期間中は、中止となったり、参加人数を制限しての実施となったりで落ち込んでいるが、R5年度は実施回数、参加人数ともに大幅に増加した。おはなしの楽しさや本の楽しさを感じてもらい図書館利用を促すためにも、今後も継続して推進していくことが必要。

○ブックスタート事業の展開：実施回数と絵本配布数

年度	H30	R1	R2	R3	R4	R5
実施回数	12	11		13	12	12
絵本配布数	219	175	138	191	194	170

ブックスタートの対象人数＝配布数となっており、配布率は100%となっている。プレゼントする本は、8タイトルの中から希望の本を選ぶことが出来るようになっており、前述した保育園の保護者を対象としたアンケートでは、「選んだ本は満足しましたか」という問いに対して97%の保護者が「満足した」と答えていて、その満足度はとても高いものとなっている。よって、ブックスタート事業の展開は、乳幼児の読書活動の推進にかなり有効な事業だと捉え、今後も継続して推進していくことが必要。

○母親学級（マタニティカフェ）における読書活動の推進：実施回数と参加人数（父親含む）

年度	H30	R1	R2	R3	R4	R5
実施回数	3	3	3	3	3	3
参加人数	35	45	35	35	23	15

ネウボラ推進課の事業「マタニティカフェ」で妊婦さんを対象に「今日から始める読み聞かせ」と題して、生まれてくる赤ちゃんと絵本を介して楽しい時間を過ごすためのすすめを行っている。ブックスタートでプレゼントする本の紹介や、その中の一冊の読み書きせなども行い、ブックスタートへ繋げるための導入として有効と考える。保護者向けの読書推進活動として継続していくことが必要。

○学校図書館との連携

学校図書館との連携会議を各町毎、または近隣の町との合同で年2回程度実施し、子どもの読書活動の推進を図っている。

○おはなし会、ブックトーク：実施回数（8館合計）

年度	H30	R1	R2	R3	R4	R5
実施回数	19	25	3	15	17	25

学校に出向いてのおはなし会、ブックトークの実施回数は、コロナの影響により減ったものの、R5年度は25回と増加した。小学校からは主に読み聞かせ、中学校、高校からは主にブックトークの依頼がある。読み聞かせやブックトークは、読書意欲の喚起やその後の図書館利用に繋げることが出来るため、今後も推進していく必要がある。

6. その他

○障がいのある子どもへの読書活動の支援

点字資料やLLブック（やさしく読みやすい本）、さわる絵本、大活字本、布絵本、朗読テープなどを所蔵し支援体制を整えているが、利用は少ない。所蔵していることを広報したり、利用しやすいように棚を作る（りんごの棚）など工夫し、重点的に推進していくことが必要。

*LLブック：日本語が得意でない人や知的障がいのある人をはじめとした一般的な情報提供では理解が難しい様々な人にとって読みやすいように作られている本。

*りんごの棚：特別なニーズのある子どもを対象とした公共図書館サービスの一つ。紙に印刷された資料だけでなく、読書を支援するための道具がある。一つの場所に集めることで、子どもが自分に適した資料に出会える手助けをする。

○外国籍の子どもへの読書支援

英語、フランス語、ドイツ語、中国語、朝鮮語、スペイン語、ポルトガル語、ノルウェー語、タイ語、ネパール語などの資料を現在 982 冊所蔵しているが、外国籍の子どもが利用することは少ない。北杜市在住の外国籍の子どもの状況を把握し、そのニーズに合った収集をしていくことが必要。

○ボランティア研修の実施

実施年度	研修内容	実施回数
H30	伊藤久実氏による絵本を題材とした歌遊びや造形遊びについての講演	1
R1	増田喜昭氏による絵本の選書方法についての講演	1
R2	越高一夫氏によるブックトークについての講演	1
R3	中止	1
R4	作家 柚木麻子氏講演会「図書館が広げるらんたんの光」	1
R5	翻訳家 さくまゆみこ氏講演会「絵本で世界旅行」	1

図書館サービスを充実させていくためには、図書館ボランティアの協力は不可欠。図書館とボランティアが連携し協働していくためには、資質向上のためのボランティア研修を継続的に実施して、図書館員と共に学んでいくことが必要。

ボランティアの中には、子どもに特化したボランティアと大人に特化したボランティアがいるため、研修の内容に偏りが生じないように検討していくことが課題。実務的な研修も取り入れていきたい。